

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0194100251		
法人名	医療法人社団 藤花会		
事業所名	グループホーム ウィスタリア		
所在地	北海道釧路市堀川町8番30号		
自己評価作成日	令和2年1月17日	評価結果市町村受理日	令和2年7月16日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・介護理念である「入居者の気持ちに寄り添う事ができる感性を磨き、個々の尊厳を守ります。」を日々、実践し、認知症になっても在り続ける一人ひとりの尊厳性を大事にし、人権を守って行く為に支援しています。又、一人ひとり生きてきた歴史の思いを大事にし、その人らしい生活ができるよう支援し、入居者様、ご家族様が安心、安全を実感していただけるように努めて参ります。  
 ・開設して10年が経過しました。職員は「ウィスタリア」がこの地にあって良かったと地域の方々に思ってもらいたいと、入居者様への寄り添いを第一に考え、一人ひとりの思いにどのように応えられるかを模索しながら、日々、自己研鑽に努めているグループホームウィスタリアです。

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	<a href="http://nhlw.go.jp/01/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&amp;JigvovsoCd=0194100251-00&amp;Ser">nhlw.go.jp/01/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&amp;JigvovsoCd=0194100251-00&amp;Ser</a>
-------------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社 NAVIRE
所在地	北海道北見市とん田東町453-3
訪問調査日	令和2年7月3日(令和元年度分)

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

釧路市堀川町の住宅街に立地しているグループホームウィスタリアは医療法人社団藤花会が運営している、2階建て2ユニットの事業所となっています。法人母体が病院であり、日常の健康管理や体調の変化時には適切な対応が取られ、利用者、家族の安心感と成っています。介護の指針である理念は「笑顔・安心・熱意」と簡潔に掲げられ、加えて地域密着も盛り込まれた5項目のケア理念を掲げており、職員は毎日理念を唱和し、確認しながら理念に沿った介護の実践に努めています。当地域では町内会がない為、以前は隣接の町内会に声を掛け協力いただいていたが、現在はもつと身近な住民に運営推進会議の参加や災害時の協力を地道にお願いする取り組みを行っています。事業所では年に一度家族会を開催して利用者と家族、家族と職員との繋がりを大切にし、何でも言って貰える関係や協力関係を築いています。職員は常日頃から利用者の変化や思いに気付き、理解しようと取り組んでおり、利用者の心情に寄り添った介護提供を目指しています。更に、地区の地域包括支援センターが主催した地域密着型事業所の集いに管理者が出席し、地域の他事業所とも交流や協力体制が出来る様になってきています。事業所では体操や歌を歌ったり、新聞を読んだり、工夫を凝らしたゲームを楽しんだり、誕生日には買い物に出掛けたりと、利用者一人ひとりの興味や希望に合わせた暮らしを提供しており、笑いのある和やかで明るい雰囲気のある事業所と成っています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と <input type="radio"/> 2. 家族の2/3くらいと <input type="radio"/> 3. 家族の1/3くらいと <input type="radio"/> 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある <input type="radio"/> 2. 数日に1回程度ある <input type="radio"/> 3. たまにある <input type="radio"/> 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように <input type="radio"/> 2. 数日に1回程度 <input type="radio"/> 3. たまに <input type="radio"/> 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/> 1. 大いに増えている <input type="radio"/> 2. 少しずつ増えている <input type="radio"/> 3. あまり増えていない <input type="radio"/> 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が <input type="radio"/> 2. 職員の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 職員の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が <input type="radio"/> 2. 家族等の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 家族等の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない			

## 自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎朝の申し送り時、具体的場面での理念の共有化に努めています。又、ケアの全体性の中で場面を作っていくように努めています。	「笑顔・安心・熱意」と簡潔に掲げられた理念に加え、5項目のケア理念を定めています。職員は毎朝理念を唱和し、意識下に置きながら介護実践に取り組んでいます。外出用の職員名札の裏にも理念が書かれています。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域とのつながりは、「挨拶から」という考え方で、ホームの前で朝、会った方は地域の方と思い挨拶をするようにするなど、日常的交流があるように努めています。	町内会がない地域ですが、近隣住民とは散歩の時に挨拶を交わし顔見知りの関係を築いています。運営推進会議や災害時の協力要請を地道に行っています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の方からの問い合わせについては、いつでも応じる体制を整えています。又、施設見学や入居相談についても積極的に受けています。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1度、介護職員も含めての運営推進会議を開催し、出席者の方々の意見を積極的に取り入れ、サービスの質の向上に努めています。開催の議事録は市役所担当者へ報告しています。	利用者家族、地域包括支援センター職員等が参加して定期的に開催し、状況報告や質疑応答等話し合わせサービス向上に活用しています。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市役所担当者には適宜連絡を取り業務連絡だけでなく入居者の状況等の報告を併せて行う事でホームの状況等を理解してもらっている。又、隣接している地域包括支援センター職員には運営推進会議に出席して頂く事で日々の取り組みを理解して貰っている。	行政とは相談や報告、情報交換と連携し運営に反映しています。地域包括支援センター主催の中部、南部地区地域密着型事業所の集いに管理者が参加し、相互協力に向け話し合われています。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	月例会議で勉強会を行い、具体的な場面で何が拘束なのか？等、実務に関しても施錠等を含め身体拘束に該当しそうな事柄においては職員間で話し合う事が出来ています。	身体拘束廃止委員会を定期的に開催しています。年に2回勉強会を開催し、身体拘束をしないケアを学んでいます。特に不適切な言葉掛けや、仕草、行動について検討し、確認しながら介護提供に努めています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	介護理念でもある尊厳性の保持と密接な事項であるため、特にこの事は管理者が注意を払っています。又、意識しない中で結果的に介護上、好ましくない場面无いよう注意を払っています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者が後見人の研修を受け、実際に活動をし、実際場面においても制度実施者と連携し具体的場面での対応を協議している。又、その事を職員に周知し、制度理解を深めてもらっている。			
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	ご家族のみの見学、説明では無く、ご本人にも感覚的に安心して生活できる場所としての説明と自己決定を重視しています。			
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	2ヶ月毎の全体会議、2ヶ月毎のユニット会議を開催し、職員の意見を聞く機会とし、運営に反映するように取り組んでいます。自己評価も職員と一緒に取り組んでいます。	家族の訪問時には様子を伝えると共に、個別に写真と担当職員のコメントを載せた事業所便りを発行し、家族に知らせています。年に一度夏祭りに合わせ家族会を開催し、交流しています。		
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ご家族の来訪時、あるいは運営推進会議メンバーの家族代表からも、お気持ち、意見等を聴く努力をしています。	管理者は、2ヶ月毎の全体会議、ユニット会議時に、又、日常業務の中で職員の意見や提案を把握する様に努めています。全体会議時には勉強会を開催し、スキルアップに取り組んでいます。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	定年制の廃止、働き方改革の導入等、介護休暇制度を作り労働環境の改善に努めています。資格取得者にはベースアップがある給料形態になっている。			
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修案内等はポスターを掲示し職員へ周知し、参加希望がある場合はシフトの調整等も行う。新任職員にはOJT等の機会を確保している。又、メンタルケアを重視しなければならないユニットである為、職員間の連携に努めています。			
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム同士の協議会に加盟して交流をしている。又、地域密着型事業所の集いに参加し交流を深めています。			

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前には面談を行い、入居後にも必要に応じて個別に対応する事で新しい環境に馴染めるように支援し、ここで安心して暮らせる所だという事が感覚で判るよう努めています。不安や要望を聴く事ができるよう努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	特に将来的な事についての不安をお持ちの家族が多い為、この事についてホームの考え方を伝え、安心して頂くように努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居時、特に1週間はホームでの生活に馴染むまでの間は個別に関わる時間を設け、必要な支援を見極める事ができるように努めている。入居前に利用していたサービスなどを視野に入れ検討する事もあります。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	常に、入居者の立場になり、入居者のできる事、しやすい環境を整えて行ってもらっています。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	月に一度は通信とともに入居者の日常の暮らしぶりを報告している。行事等にはご家族にも参加して頂き、本人に関わって頂ける機会を設けています。又、通院介助などご家族ができる支援を行い信頼関係を構築して行くよう努めています。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	昔からの知人の訪問にも、ご家族や本人の意向に沿って対応しています。その方の生活歴への肯定的態度を上手に表現するよう努めています。	友人や知人が訪ねて来た時にはお茶を出して歓迎したり、電話を掛けたりと利用者のこれまでの関わりを大切にされた支援に取り組んでいます。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず、利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	新しい入居者同士、楽しい時間を過ごせるよう座席の配置等を配慮しています。そうする事で入居者同士、出来ない事を手伝ったりする場面が見られています。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院などで退去されてもお見舞いに行ったり、家族の相談にのっています。これらの為、退去されてから何年も経過してもお付き合いのあるご家族もあります。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	生活歴を把握し、言葉の真意の理解に努めています。その上にたったコミュニケーションに努め、思いの充足を図っています。又、ご本人の意向を考慮し、出来る限り対応を行っています。	職員は一日の中で利用者やゆっくり話す時間を持つ様に心掛け、利用者の言葉や様子から思いを把握する様に努め、職員間で情報を共有し、希望に沿った暮らしの支援を提供しています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前に生活歴を本人やご家族からヒアリングしています。入居後にも本人から昔の話を聞くようにし、今までの生活に沿った生活ができるよう努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	バイタル管理、温度表管理という日動変化の波を把握しながらその現状把握に努めています。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日常的な場面でもモニタリング、アセスメントの視点を含んだケアに取り組み、ユニット会議の中のカンファレンスで総括的に把握して、介護計画の手順を踏んでいます。その上でご家族の説明責任を果たしています。	利用者、家族の意向を確認し、モニタリング、職員によるカンファレンスで検討し、状況に即した介護計画を作成しています。介護記録用紙に長期目標、短期目標が端的に掲載されています。	介護記録用紙に介護計画が記載されていますが、介護記録の中に実施状況が記されていません。介護計画の実施状況を記録する中でモニタリング、介護計画作成に活用して行く事を期待します。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	職員間で記録を介しての情報共有がされ、サブ的な役割で別ノート(連絡ノート)を設け、周知徹底を図っています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	入居者、一人一人を生活者と位置づけ、その全体性に関わる努力をしています。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近隣施設との連携により、地域の方達との交流を心がけています。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医への受診は入居者やご家族の要望を尊重しています。受診時にはご家族の協力も得ながら看護師や職員が同行しています。協力病院や主治医の往診体制も整え入居者の健康状態を関係者と情報共有をしています。	利用者や家族の希望するかかりつけ医への受診は職員が通院同行する場合もあり、家族との協力を得ながら対応しています。必要に応じて歯科、皮膚科、精神科などの往診や週1回の訪問看護師により健康管理が行われており利用者の安心に繋がっています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	同法人の看護師に週1回、来てもらい健康チェック、健康相談を実施、入居者の体調面等の情報を申し送り相談に乗ってもらっているます。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院した際は職員が面会に行き、現状を把握しながら、ご家族と共にムンテラを受け、医療情報を共有する事に努めています。又、施設機能の変更も有りえる為、医療機関との関係構築には努力しています。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重篤時におけるホームとしての指針を作成し同意書を整備しています。医療行為が生じた場合は主治医がご家族に説明し、今後の方針を関係者と協議しています。	入居時に重度化対応、終末期ケア対応を利用者や家族に説明し同意を得ています。思いや意向に沿えるよう主治医のアドバイスを事業所、家族と協力、連携しながら取り組んでいます。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救急救命講習会参加、急変時の夜間対応など(救急車の手配、ご家族への連絡の手配)をマニュアル化しています。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回夜間想定避難訓練や消防職員指導の下で消火器の使い方、通報訓練等を行っています。又、断水、停電、地震時の避難先も確保し必要な備蓄品も用意しています。	消防署の立会いのもと年2回、夜間想定で避難訓練を実施しています。消防署や防災設備業者から助言を頂きながら行っています。缶詰やアルミシートなどを準備し今年度はポータブルストーブの購入を予定しています。	避難訓練に地域住民の参加が得られていません。現在地域住民への声掛けを行っており、地域住民の参加、協力、連携の構築を期待します。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者に合わせた言葉掛けに努め、言葉の抑制を意識し確認しながら日々ケアに当たっています。排泄や入浴時にプライバシーに配慮。居室のドアは必ず閉めるよう努めています。	排泄時の利用者の声掛けには充分注意し、羞恥心を感じさせないよう努めています。先回りしすぎず声掛けのタイミング、話し方に注意を払い、不安に駆られないよう、仕草や行動などを見極め利用者の意志を尊重するようしています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	難しい自己決定はなかなか困難だが、ご本人の感覚を大切にしたいと考えています。ご本人の表情などからご本人の意向を汲み取るように努めています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員も入居者のペースに合わせて声掛け等を行い入居者の方達の時間的波長に合わせる努力をしています。		

自己評価	外部評価	項目	外部評価	
			自己評価	実施状況
			実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご本人の生活歴に沿っての身だしなみに配慮しています。特に整髪には気を付けています。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事も大事な日常生活なので、出来る限り皆で準備をし、食事が楽しくなるように努めています。職員と一緒に食べ、時間を共有する事で入居者の嗜好等をより理解できるように努めています。	利用者の好みを把握し食べたい物を聞きながら職員がメニューを決め調理しています。下膳やおぼん拭きなどを役割としています。夏祭りではバーベキューをしたり、誕生日には個別に回転寿司に出かけたり楽しい食事になるよう取り組んでいます。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量、水分摂取量を毎日記録しながら栄養管理、水分管理、健康管理に努めています。又、摂取が機械的にならないように気を付けています。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアを行い、出来る、不十分、出来ないなど能力面を見ながら自立を促します。口腔内トラブルについては医療連携をとっている歯科医師に往診を依頼しています。	
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を活用し排泄パターンを把握して促しや誘導を行い、不快状態の軽減に努めています。	生活のリズムに合わせた声掛けや誘導を行い、トイレでの排泄支援に努めています。不快な気持ち、自尊心を奪わないケアを心がけています。
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便記録の中で、毎朝下剤等の調整をしています。ここに乳酸菌を飲む等、飲食物の工夫も行っていきます。	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴は週2回を基本とし、入居者の心身の状態に考慮しながら支援しています。無理強いはず言葉掛けなどで入浴に繋げ、清潔保持に努めています。入浴時間はコミュニケーションの場となっています。	利用者の希望や体調を考慮し週2回を基本に入浴しています。二人介助、同姓介助にも対応し気持ち良くゆっくり安心して入浴できるよう支援しています。
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	リビング、居室のどちらでも休息できるスペースを確保し自由に休息できる環境を整え、入居者のその時の状況に合わせて休息をす等、1日の流れを考え支援しています。	
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	入居者が服薬しやすいよう介助を行い、薬の用法や用量などに理解に努めています。特に薬が変更になったような場合、その変化について十分観察する事に努めています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活歴の中からメリハリのある生活は、その人にとっては何なのか？理解し実践するよう努めています。			
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	近所に散歩に出掛けたり、受診時に入居者と馴染みの店で買い物をしたり、入居者の希望や興味を大切に外出支援に取り組んでいます。	毎年、年間行事の花見、紅葉狩りなどを実施しソフトクリームやレストランで食事をしていません。外食など行きたい場所への外出支援に個別対応で取り組んでいます。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	使うかわないかは別として、金銭を持つという安心感を考え、小銭の入った財布を持っている入居者もいます。又、外出時はご本人の意向に沿って使えるように配慮しています。			
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	入居者の希望に沿って本人が電話をしたり、手紙のやり取り等、通信の保障、人権という考え方で支援しています。			
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	常に清潔に心掛け、生活しやすいように配慮しながら、心地よい環境は、心地よい精神状態になると考え日常的に努力しています。季節ごと、行事ごとに合わせての掲示物の工夫も行っています。	年中行事のイベントの七夕飾りでは短冊に願いを書いたり、季節を感じられる飾り付けがされています。体操やテーブルボウリング、卓球など行い、身体能力に応じて楽しみながら運動をし、笑顔が多く表情が豊かで穏やかに過ごしています。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングは、共有ルームとなっている為、落ち着く場所を重視しています。さりげなく新聞や雑誌が置いてある等の気配りに努めています。			
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に入居者やご家族に普段から使用している物を持参して下さいと伝えている。入居者は馴染みの物や思い出の写真に囲まれて自分の部屋として、その人らしく居心地の良い部屋作りを支援しています。	居室には利用者の使い慣れた寝具や家具、テレビなどが持ち込まれ、利用者が希望する人生の過ごし方、今までの生活習慣が継続できるよう努めています。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	限られたスペースでも工夫する事で車椅子でも自由に移動できるように努め、又、安全面を考えながら、認知症の方、一人ひとりに使い勝手が良いように環境を整える努力をしています。			